

稲・麦・大豆かわら版 ～大豆編(病害虫防除)～

2026.8.4 発行
栃木県塩谷南那須農業振興事務所
経営普及部 0287-43-2318
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/>

8月～収穫前までのポイント

○減収並びに品質低下の大きな原因は病害虫です。ほ場をよく観察し、適期に防除しましょう！

1 管内生育状況（左：R8.8.3撮影 中・右：R8.7.31撮影）



- ・6月19日播種
- ・開花期



- ・7月1日播種
- ・4～5葉期



- ・7月15日播種
- ・2葉期

2 主な病害虫の被害とその対策

	べと病	紫斑病	カメムシ類		ハスモンヨトウ
写真	出典：令和5年産大豆の栽培技術指針		イチモンジカメムシ アオクサカメムシ ホソヘリカメムシ		
被害	・葉に黄色病斑 ・子実に乳白色の菌糸	・子実に紫色斑点	・子実肥大中期（9月上中旬）の吸汁害		・葉の食害だけでなく莢や子実まで食害
防除対策	・開花10日前～子実肥大中期に薬剤防除を行う。 ・開花前にべと病が発生した場合は、茎葉に薬剤を散布する。	・薬剤散布時期は開花15～35日後に、<u>1回目散布はこの期間の早い時期に行う。</u> ・Qol剤の散布回数は原則1回。	・開花期の15日後に1回目の散布を行い、その後10～14日おきに3～5回薬剤を散布する。 ・特に多発地域では散布間隔を短く回数を多くする。		・発生初期（体長1cm以内）に薬剤散布する。 ・特に8月下旬から9月上旬に若齢幼虫が集団で加害している時の防除効果が高い。

3 大豆生育ステージから見た注意すべき主な病害虫

開花後日数	時期	生育ステージ	注意すべき病害虫
(開花10日前)	7月下旬	開花前	べと病
15日後	8月中旬	莢伸長期	紫斑病、べと病、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ハスモンヨトウ、サヤタマバエ等
25日後	8月下旬	子実肥大初期	紫斑病、べと病、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ、ハスモンヨトウ等
40日後	9月上旬	子実肥大中期	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ、ハスモンヨトウ等
50日後	9月中旬	子実肥大後期	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ

4 主な殺虫殺菌剤及び除草剤 ※RACコードを参考に同系統の薬剤連用を避けましょう。

農薬の名称	希釈倍率等	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	適用病害	RACコード
プランダム乳剤25	3000～5000倍 (16～24倍)	散布 (無人航空機)	開花後～ 収穫7日前まで	2回以内	紫斑病	F:3
トライフロアブル	1000倍 (8倍または16倍)	散布 (無人航空機)	収穫14日前まで	2回以内	紫斑病	F:U16
フセキフロアブル	3000～4000倍 (24～32倍)	散布 (無人航空機)	収穫前日まで	3回以内	紫斑病	F:53
アミスター20フロアブル	2000～3000倍 (16～24倍)	散布 (無人航空機)	収穫7日前まで	2回以内	紫斑病・べと病(2000倍)	F:11
ザンプロDMフロアブル	1500～2000倍 (8～16倍)	散布 (無人航空機)	収穫7日前まで	3回以内	べと病	F:45 F:40
レーバスフロアブル	1500～3000倍 (12倍)	散布 (無人航空機)	収穫7日前まで	3回以内	べと病	F:40

農薬の名称	希釈倍率等	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	適用害虫					RACコード
					カメムシ類	ハスモンヨトウ	フタスジヒメハムシ	マメシンクイガ	アブラムシ類	
アミスタートレボンSE (紫斑病にも登録あり)	1000倍 (8倍)	散布 (無人航空機)	収穫14日前まで (収穫21日前まで)	2回以内	○	○		○	○	I:3A F:11
ブレバソソフロアブル5	4000倍 (16～32倍)	散布 (無人航空機)	収穫7日前まで	2回以内		○		○		I:28
ダントツフロアブル	2500～5000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	○		○	○(2500倍)	○	I:4A
	24倍	無人航空機								
スタークル液剤10	1000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内	○		○			I:4A
	(8倍)	無人航空機								
プロフレアSC	2000～4000倍 (16～32倍)	散布 (無人航空機)	収穫前日まで	3回以内		○	○	○		I:30
ミネクトエクストラSC	10000～12000倍 (40～80倍)	散布 (無人航空機)	収穫7日前まで	2回以内	○	○		○		I:28 I:15
エクシードフロアブル	2000倍 (16倍)	散布 (無人航空機)	収穫14日前まで	3回以内	○					I:4C

農薬の名称	適用雑草	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量	散布液量
パワーガイザー液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布又は 全面土壌散布	出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	1回	200～300ml/10a	50～100L/10a
		畦間雑草茎葉散布	生育期(雑草発生揃期～2葉期) (但し、収穫30日前まで)	1回	200～300ml/10a	100L/10a
大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	雑草茎葉散布又は 全面散布	だいたい2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) (但し、収穫45日前まで)	1回	100～150ml/10a	100L/10a

- 1) RACコード11に属する薬剤(アミスター20フロアブル)は耐性菌が発生しやすいので隔年使用とし、散布回数は原則1回とする。
- 2) 登録内容は令和8(2026)年8月1日時点
- 3) 散布と無人航空機が併記された薬剤は両方に登録があるが希釈倍率や散布量が異なるので注意。
- 4) 大豆バサグランは薬害に注意。他剤(殺虫剤、殺菌剤)との混用は避け、展着剤も使用しない。

農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！



身支度も
万全にし
てまる～

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する



栃木県農研セ
ンター環境技
術指導部



栃木県農作物
等病害虫雑草
防除指針